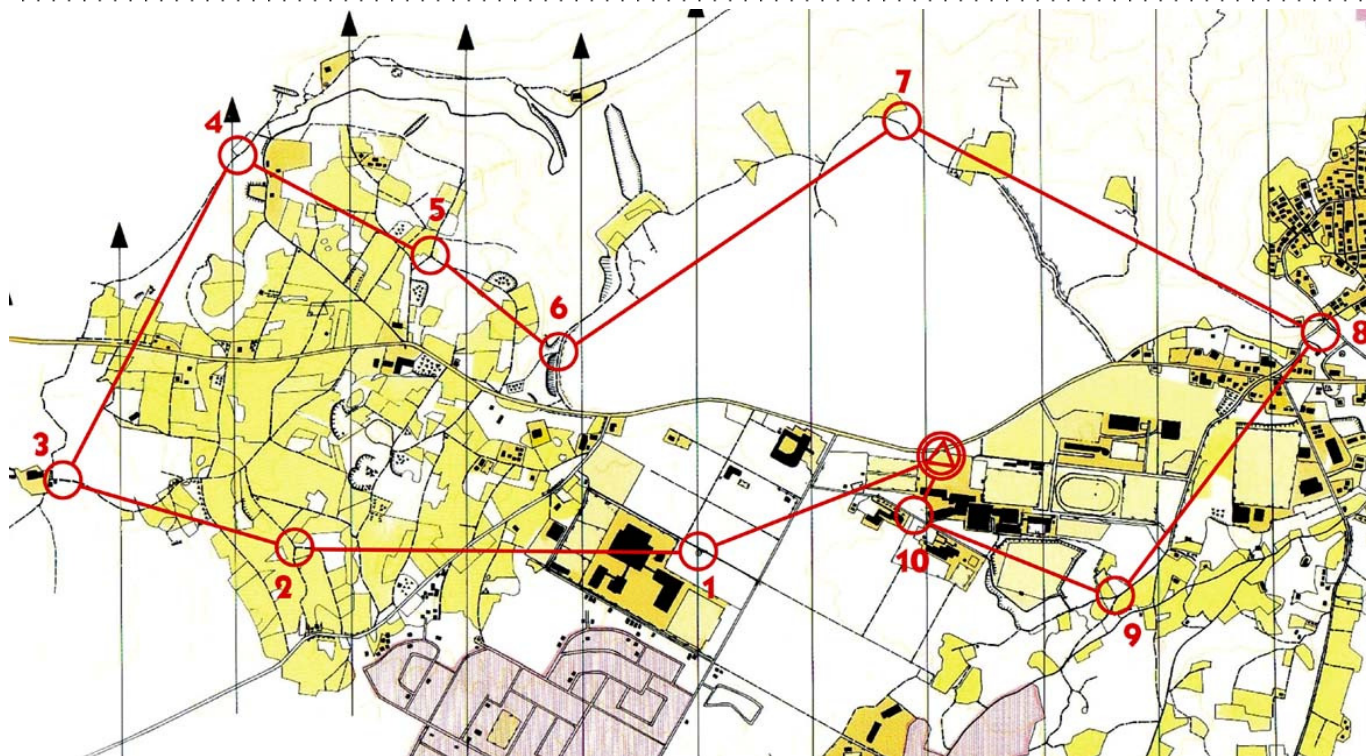


日本一！ 富士山ジラゴンノ

鳴沢村・緑の休暇村コース 山梨県鳴沢村



富士山北麓の爽やかな高原地帯を巡るコースとして知られる「鳴沢村・緑の休暇村」パーマネントコース。昭和51年3月の開設から35年が経過した今でも、抜群の整備状況で多くのオリエンティアを楽しませてくれています。

「鳴沢村・緑の休暇村」コース
9km 10ポスト
山梨県 No.79 JOA 公認 No.388

四半世紀を超えて

今回は2度目の挑戦。最初の踏破から26年ぶりに訪れてみることにしました。

前回は家族5人で富士吉田から本栖湖行きのバスを利用してスタート地点の富士緑の休暇村へ向かいましたが、今回はレンタカーの利用です。東名高速御殿場インターから無料開放されている東富士五湖道路を経由します。一般道に下り、富士パノラマラインと名づけられた国道139号線をスイスイと走り、大船から2時間余りで鳴沢村に無事到着。スタート前に腹ごしらえをと、道の駅なるさわで切干大根と鳴沢

菜入りのお焼きを1つつ購入して富士山を仰ぎ見ながらバクつきます。辛味の効いた切干大根が意外にクセになる味で、更に追加でもう1つ。「おいしかったからまた来たよ」と言うと、売店のおばちゃんともすっかり仲良しになります。

充電を完了して富士緑の休暇村に車を走らせると、前回と全く同じ場所に案内板が立っています。それでも26年前の写真と比較してみると、高原ムードを醸していた背後の白樺がなくなったり、クリーム色だった休暇村の建物が白に塗り替えられたりと、経年変化が見て取れます。案内板も以前はマスターマップが掲示され、ここでコースを転記しましたが、今はそれもなく、ただスタート地点であることを示すだけになっています。



地図は休暇村のフロントに依頼するとマスターとともに用意をしてくれま

す。ただしこのマスター、ポスト記号の正解がすべて記載されていること、変更になった第7ポストの位置が未修正であるといった難があります。地図は1:10,000と見やすくなり、平成22年4月1日発行の最新版です。

コースは第7ポストのほか、第2ポストも僅かに移動があり、終盤の9と10は前回とは全く異なる場所に変更されていました。

春の陽がふりそそぐ中、午後1時16分に歩き始めます。国道を西に進み、「じらごんの富士の館」や「紅葉台センチュリーヴィラ」という別荘地への入口看板のある分岐を左折します。ちなみに、緑の休暇村一帯の地区は「ジラゴンノ」という一風変わった地名がつけられています。調べてみると、「溶岩台地にある低木地帯」をコンノといい、「富士山の方にあり、その裾野にわたる広い荒野のようなところ」という意味でつけられたとい説や、鳴沢の開拓者とされる「次郎権現野(ジロウゴンゲンノ)」がなまったなど諸説があり、はっきりしたことはわかっていないようです。

直線道路から十字路を右折するとほどなく左手奥に第1ポストが顔を覗かせます。ポストは開設当初のものがし

っかりと手直しされて今なお現役でした。赤色がまぶしいほど鮮明です。すぐ下の風穴には雪がまだ残っています。

第2ポストは最短路の主要道路を選ばず、西側の里道を歩くことにします。キャノンアネルバの富士工場の前を過ぎると、26年前よりも拡張された様子の広い道路に到着。これを横断し、未舗装の道を西に向かいます。雄大な富士山を間近に見ながら進みつつも視線を足元に転じると、無数の蹄鉄の跡が続いています。ついさっき付けられたばかりのような痕跡に「まさかここを馬が走るの?」と驚きが思わず口からこぼれます。その驚きが更なる驚きに変わるのはもうしばらく後のこと。まだまだ冬枯れの雑木林を眺めながら歩き、分岐を鋭角に戻ると三叉路に第2ポストが置かれていました。以前はここから東へ100mほどの、見晴らしのよい曲がり角に設置されていたものです。

突き当りから西に向かうと、周囲は妖気漂う原生林に包まれてきます。青木ヶ原樹海の南の端にあたり、ここからしばらく樹海の中を歩くこととなります。よく言われる「磁石が効かなくなる」といったこともなく、遊歩道を歩いている限り問題はありません。しかし、松本清張の小説で一躍自殺の名所となってしまったことを実感するような立て看板があり、「命は親から頂いた大切なもの」と静かに語りかけています。この看板の先に第3ポストがあるのですが、何故か道の反対側に移設されていました。



ここから観光名勝である鳴沢氷穴はすぐですので、時間に余裕があれば立ち寄ることをお勧めします。この4月の時期が最も氷の量が多いようです。

北に向かって樹海を進むと国道をトンネルでぐりまわります。抜け出した真正面に「この先 富士緑の休暇村オリエンテーリングコースではありません」という立て札が出現。地図をよく見れば、このまま直進せずに、いったん右に曲がってからその先へ進むことがわかりますが、うっかりしているとそのまま真っ直ぐに進んでいってしまいそうな

ところでもあります。この札も決して古いものではないことから、コースがしっかり管理されていることが伺えます。このコースの最高地点である第4ポストへは緩やかなのぼりが続きます。隣接している「西湖・紅葉台・樹海」コースのポストと同型のものがこの間に1つ、第4ポストの先に1つ設置されています。ただしこれら2つは公認コースのポストではありません。紅葉台へ向かう途中の尾根筋で第4ポストを見つけ、すぐ横の空き地から眼下に広がる樹海の景色を存分に味わいます。樹齢は300年ほどということですが、まるで太古の景色を眺めているような錯覚に陥ります。



青木ヶ原樹海を望む

ここから下ると馬の姿が見えてきます。蹄鉄の正体はこれかと納得。第2ポスト近くにも「パディフィールド」という乗馬クラブがあり、ここ「木曾馬牧場」とともに、小柄で足のどっしりとした和種馬による外乗の乗馬が楽しめるそうです。平坦な道を進み、三叉路の第5ポストに到達した直後、向こうから2頭の馬が勢いよく疾駆するところに遂に遭遇。人のいる手前では速度を落として通過しているようですが、間近に見ると迫力満点で圧倒されます。



第6ポストを過ぎたところでも再び出遭うと、馬上から「楽しいですよ」と勧誘までされてしまいました。正直、興味津々です。ちなみに第6ポストは、雰囲気の良い小道を抜けて、乗馬コースの道との分岐に立っています。これもわずかに移設されていて、以前は坂道を下る途中に設置されていました。

山すその平らな道をのんびりと歩き、

第7ポストは白樺林の中で確認。そして、第8ポストは西よりに移設されて、魔王神社下に置かれています。このポストだけ後年更新されてFRPタイプになっています。

いよいよコースも終盤。特別天然記念物の「鳴沢溶岩樹型」を見学し、再び国道の南側のエリアへと進んでいきます。富士山を眺めながら、なるさわ活き活き広場の前を過ぎると、三叉路脇の林との植生界に移設された第9ポストがたたずんでいます。



第9ポスト手前での富士山の眺め

前回は通らなかった「ガス溜り型溶岩水蒸気噴気孔群(鳴沢ジラゴンノ)」の前を過ぎ、最終ポスト手前になると、道路の拡張工事に遭遇します。通常のコースであれば、道路拡張=ポスト撤去となるところですが、このコースまったく問題ありません。しっかりと植え替えられ、涼しい顔をして待っていてくれます。ここは休暇村のすぐ裏になり、建物を回りこむとゴールはすぐのところですよ。

帰りがけに、この夏から「富士山」駅と改称される富士吉田駅に立ち寄り、今の姿を写真に収めてきました。

四半世紀のうちに多くのものが変わり行くなか、最高の状態のままコースを維持してくれている方々に頭の下がる思いです。

2時間半ほどのコースですので、他の観光と組み合わせてぜひお越しください。

(2011年4月17日 踏破)
(大高竜亮)